講演会

**指点字ってすごい！**

2013年3月10日（日）

於：和歌山ビッグ愛９階

**和歌山盲ろう者友の会**

1. **盲ろう者の通訳・介助を行う際の留意点**

**(１)盲ろう者と接する際には先ず必ず自分の　名前を伝えましょう**

**盲ろう者は目と耳の両方に障がいがあるため「こんにちは、お元気ですか？」等いきなり声を掛けられても誰に声を掛けられたのか分かりません。**

**ですので、「鈴木です。こんにちは、お元気ですか？」等、先ず盲ろう者の肩や腕を軽くたたき、必ず自分の名前を名乗るようにして下さい。**

**（２）盲ろう者のペースに合わせて通訳・介助を行うようにして下さい**

**例えば、手話が上手でも盲ろう者に伝わなければ意味がありません。盲ろう者にきちんと伝わっているかどうか確認しながら盲ろう者のペースに合わせて通訳・介助を行うようにして下さい。**

**（３）盲ろう者とコミュニケーションを取る際**

**盲ろう者に伝わるようにあいづちを打つようにしましょう**

**首を縦や横に振っただけでは盲ろう者に伝わりま**

**せん。手の甲を軽くたたくとか、盲ろう者が「自**

**分の話を聞いてくれているんだ」と分かるような**

**あいづちの打ち方をして下さい。**

**（４）盲ろう者から離れる際は離れることを伝え**

**てから離れるようにして下さい**

**何も言わずに離れてしまうと盲ろう者が不安になるので「トイレに行ってきます」等と離れる理由を伝えた上で離れるようにしましょう。**

**（５）盲ろう者とコミュニケーションを取っている際は、盲ろう者の前腕等盲ろう者の身体に軽く触れておくようにしましょう**

**盲ろう者は目も耳も不自由なので身体の何処かに触れておかないと相手が何処に居るのか分からず不安になります。ですので、盲ろう者とコミュニケーションを取る際は盲ろう者の前腕等に触れておくようにしましょう。**

**（６）盲ろう者を一人にしないようにして下さい**

**盲ろう者は目からも耳からも情報が入ってこないので一人になってしまうと周囲の状況も分からず不安になります。ですので、盲ろう者を一人にしないようにして下さい。（ただし、通訳・介助を代わってもらえる人もおらずトイレに行く等盲ろう者から離れなければならない時は、離れる事情を説明して離れるようにしましょう。）**

**（７）通訳をする際は、先ず必ず発言者の名前を**

**伝えてから通訳をするようにして下さい**

**発言者の名前を伝えないと誰が発言しているのか**

**分からず盲ろう者が混乱してしまうので、必ず発**

**言者の名前を伝えてから発言内容を伝えるようにしましょう。**

**（８）適宜状況説明を入れて下さい**

**会話の通訳だけでは盲ろう者に上手く伝わりません。話し手の表情やその場の雰囲気等、適宜状況説明を入れて下さい。**

**（９）雑談を軽視しないようにしましょう**

**数名で食事やお茶をする際、盲ろう者には通訳せず聴こえる人たちだけで盛り上がっている光景を見かけることがあります。雑談の中から重要な情報を得られることも少なくはありません。**

**盲ろう者も話の中に入れてあげて下さい。**

**（10）基本的には直接話法で通訳をするようにし**

**ましょう**

**発言者の発言内容を通訳・介助者の言葉に置き換えてしまうと生きた会話になりません。（間接話法）**

**生きた会話にするために基本的には発言者の発言通りに通訳をしましょう。（直接話法）ただし、直接話法では盲ろう者に伝わりにくい時は、その盲ろう者に伝わりやすい言葉に置き換えて通訳をするようにして下さい。**

**〈例〉松山さんの発言を盲ろう者に通訳をすることになったとします。**

**直接話法：松山「徳島は良い所だよね」**

**間接話法：通訳・介助者「松山さんが徳島は良い所だと言っています」**

**（11）盲ろう者と社会との架け橋になって下さい**

**ただ通訳・介助をするだけでなく盲ろう者が社会参加できるよう盲ろう者と社会との架け橋になって下さい。**

**（12）盲ろう者との信頼関係を築くことが大切**

**盲ろう者の通訳・介助をする際に最も大切なことは信頼関係を築くこと。信頼関係を築けるよう盲ろう者とたくさんコミュニケーションを取って下さい。**

**（13）スキルよりマインド**

**スキル(通訳・介助技術)を磨くことも大切ですが、それ以上に盲ろう者のことを理解し盲ろう者の立場に立って通訳・介助をすることが大切です。**

1. **盲ろう者の心理 ～盲ろう者の心理を４つの段階に分けて考えてみましょう～**
   * **私(藤鹿)が盲ろう者となり経験した４つの段階→気持ちの移り変わりについてお話させていただきますが、必ずしも総ての盲ろう者がこの「盲ろう者の心理・４つの段階」を経験しているとは限りませんし、その時の気持ちの持ち方も必ずしも一致しているわけではありません。**
2. **盲ろう者として生きていく上での気持ちの移り変わり**

**同じ盲ろう者でも盲ろうという障がいを受障した時と受容した時とでは気持ちの持ち方は全く異なります。その盲ろう者の心理状況に応じた通訳・介助を行う必要があります。**

1. **盲ろう者の心理・４つの段階**

**1.盲ろう者になった時(受障期)**

**人間にとって大切な五感のうち視覚と聴覚を奪われたことにより今後どのようにして生きて行けばいいのか分からず、精神的に大きなダメージを受けます。**

**2.盲ろうという障がいを受容できない時期**

**自分は目と耳の両方に障がいのある盲ろう者であることを受け入れられない時期。他者にも自分が盲ろう者であることをなかなか伝えることができず、社会から断　絶され孤独な生活を送ることになりがちです。**

**3.受容期**

**様々な困難を乗り越え、盲ろうという障がいを受容できる時期。**

**4.積極的に社会参加と自立を目指す時期**

**「盲ろう者向け通訳・介助者派遣事業」等を利用して積極的に社会参加と自立を目指す時期。**

1. **４つの段階に応じた通訳・介助の仕方**

**※盲ろう者の心理は複雑で奥深く、盲ろう者によっても異なるので浅く触れておきます。**

**1.受障期**

**精神的に大きなダメージを受けているため、すぐに他者に心を開くのは難しいです。どのようにしたらその盲ろう者とコミュニケーションが取れるか粘り強く模索し、話し相手となり、盲ろうという障がいにより凍りついてしまった心を少しでも溶かしてあげて下さい。**

**2.盲ろうという障がいを受容できない時期**

**盲ろう者でも本人が努力し、適切なサポ**

**ート(通訳・介助等)を受けることにより社会参加と自立ができることを伝え励ましてあげて下さい。**

**この時期は、まだ盲ろうになってからの**

**社会経験も浅く、また通訳・介助を受けることにも慣れておらず、自己決定や自己判断をするのは難しいことも多々あります。盲ろう者が自己決定や自己判断できるような通訳・介助を行うことが盲ろう者の通訳・介助をする際の基本ですが、盲ろう者の意思を尊重しつつ必要に応じて物事を決める際の手助けをしてあげて下さい。**

**3.受容期 及び積極的に社会参加と自立を**

**目指す時期**

**盲ろう者として社会経験を積み、通訳・**

**介助にも慣れ、自己決定や自己判断もしやすくなる時期。**

**その盲ろう者が適切な自己決定や自己判**

**断ができるよう状況説明を含めた通　訳・介助を行って下さい。**

**資料提供：藤鹿一之 氏**